

日本原子力学会 核燃料部会
平成 31 年度第一回運営小委員会議事録

日時 : 令和元年 5 月 14 日 (火) 13:30~16:00

場所 : 日本原子力学会事務所 会議室

出席者 : 宇笠部会長、草ヶ谷副部会長、天谷委員、大堀委員、園田様 (尾形委員代理)、川西委員、黒崎委員、吉原様 (松本委員代理)、篠原委員、島田委員、大脇様 (谷口委員代理)、平井委員、堀内委員、柳沢委員、山内委員、渡部委員、原田 (記)

議事

1. 前回議事録等の確認 (資料 1)

原田庶務幹事から、前回 (平成 30 年度第四回) 運営小委員会議事録を紹介した。事前にメールにて確認済みである旨紹介し了承された。

2. 平成 31 年度核燃料部会小委員名簿、業務担当 (資料 2)

原田庶務幹事から、平成 31 年度核燃料部会小委員名簿、業務担当を紹介した。

○ ホームページを適切に更新する観点から、グループ 4 (電力) からホームページ管理の担当者を設けることを議論した。

・ グループ 1 の広報担当がホームページの作成を分担するのでは (核燃料部会細則では、広報幹事は部会のホームページを作成し管理すると記載)。

→ 新たなコンテンツを作成するのは、大きな仕事なので、グループ 1 の広報担当を中心に進めて頂くことになる。ホームページの更新、分かり易い記載に関するチェックを行い、グループ 1 の広報担当のサポートする役割でよい。

・ 担当を決めて確実に実施して頂くのがよいので、その方向で進める。

○ グループ 1 で京都大学: 2 名、大阪大学: 空席になることについて議論した。

・ 大阪大学の大石先生は企画小委員会をお願いしているので、牟田先生に運営小委員会をお願いすることにする。

・ 京都大学の 2 委員については、今後も委員を継続して欲しい。

→ 同じ京都大学でも、工学研究科と複合原子力科学研究所 (京大炉) では組織が異なると言える。

・ 組織が異なれば問題ないを考える。組織名を変えて名簿に記載する。

3. 平成 30 年度収支実績と平成 31 年度予算の確認 (資料 3、資料 3-1)

原田庶務幹事から、平成 30 年度末の収支実績、および学会事務局から依頼のあった「実績と予算差額調査」の回答案について紹介した。

平成 30 年度末の収支実績については、昨年度からルールが変わり、未消化

予算は本部繰り入れとなった。また、通常予算の繰越額がゼロとなるよう、収入予算額が削減されることになった。今回、ルール変更の説明がなかったことから、「実績と予算差額調査」での要望事項に、分かり易い資料の提示を記載した。

4. 企画小委員会の概要について（資料4）

草ヶ谷副部会長から、4月19日に開催された企画小委員会の議事録の紹介があった。

年度初めとなるので、企画小委員会の中で、あるべき姿、活動での課題や改善案等の議論を行った。また、平成30年度第4回運営小委員会で企画小委員会に振られた事項（アクション）について議論を行った。学会誌の連載講座については、来年に向けて企画小委員会にて案を検討していく。

5. 部会賞実施要領の改定について（資料5）

篠原国内企画担当から、企画小委員会で議論された部会賞実施要領の改定について紹介があった。

○ 講演者の年齢制限について

- ・改定案で、「原則」は削除することか。実施要領で奨励賞の方は記載が残っているが。
 - スペシフィックに規定したので、削除する。奨励賞も削除する。
- ・ホームページに改定案を掲載するときに、改定理由を記載することになるので、記載案を検討して欲しい（例、年齢による候補者の対象を明確にするため）。

○ 部会賞（学会講演賞）の副賞について

- ・奨励賞と学会講演賞の副賞の値段は。
 - 楯は1万6千円程度、メダルは4~5千円程度。
- ・副賞によって選考にエントリーする人が増えるかもしれないし、部会報で受賞者に執筆を依頼するので、副賞は必要。
 - メダルを贈呈する方向とし、学会事務局から細則等に副賞の品物を明記するようにコメントを受けているので、部会賞実施要領はそれを反映した改定とする。

○ 評価票の内容改善について

- ・評価者におけるゼロ点の基準統一化について、何らか工夫するように継続検討していく。

○ 評価票の事前公開について

- ・評価票自体を公開するのではなく、評価のポイントを公開するのが良い。
- ・評価のポイントの項目については、学会講演賞の募集要項に関するホームページで部会賞実施要領の付録としてリンクが張ってあり見ることができるが、募集要項に記載した方が親切と思う。

→ ご意見を反映する。

6. 2019 春の年会部会賞（学会講演賞）選考結果について（資料 6）

篠原国内企画担当から、5 月 7 日に開催した部会賞選考小委員会での 2019 年春の年会における学会講演賞について、受賞候補者の選考結果の報告があり、本運営小委員会で承認・決定した。

（選考結果）

- ・鈴木 恵理子（日本原子力研究開発機構）
- ・近藤 俊樹（大阪大学大学院工学研究科）

7. 2019 秋の大会における企画セッションについて（資料 7）

篠原国内企画担当から、企画小委員会での議論の紹介と東大阿部先生から提案があった企画セッション「フランスの原子力事情とジュールホロビッツ材料照射試験炉の紹介」について紹介があった。

本企画セッションは海外情報連絡会としての提案であるが、材料部会、核燃料部会、核融合工学部会の合同セッションにする提案があり、議論した結果、核燃料部会として合同セッションに参加することとした。

○ 川西委員から春の年会の FP 研究専門委員会の企画セッションに係る連絡

- ・当日は立見が出るほど盛況で、プレスも入り記事となったことから、社会的な興味も非常に高かったテーマと考える。研究専門委員会の幹事から核燃料部会にお礼の言葉があった。
- ・セッション中の質疑応答で、「FP 研究専門委員会は FP を研究のターゲットにしているが、重大事故後の原子炉の中には FP とデブリ（燃料）があり、デブリ研究専門委員会は終わっているけれど、両輪で進めていくべき」とのコメントがあった。そのコメントに対し、デブリを加えた場合にどのような検討をすべきかを FP 研究専門委員会で議論しており、ある程度の提案ができたなら核燃料部会に対し FP 研究専門委員会の考えを説明し、核燃料部会から意見を伺う予定とのこと。

○ 草ヶ谷副部長から、水化学部会の企画セッションに係る連絡

- ・水化学部会が秋の大会の企画セッションで、水化学ロードマップに係る改訂の紹介を行う予定で、水化学部会と関係の深い材料部会と核燃料部会の方に、当日、会場からご意見を頂きたいとの話があった。過去の経緯から、候補者として原燃工の土内氏と調整することとした。

8. 平成 31 年度夏期セミナーの準備状況について（資料 8）

天谷夏期セミナー担当から、夏期セミナーの準備状況について紹介があった。内容について、本運営小委員会の承認が得られたので、開催案内の周知、参加者の募集（ホームページ掲載、学会と部会の情報メール、部会報掲載）及び講演者への正式通知を進める。なお、募集の締切は、6 月 14 日の予定であるが、

人数が少ない場合は、延期もあり得る。

○ 夏期セミナーの学生補助と繰越金について議論した。

- ・ 夏期セミナーの収支について、大幅な黒字にする必要もなし、若干の赤字もよいと思えるが。
 - 基本は赤字を出さないように、謝金、学生の補助を検討している。黒字の方向にするには、正会員が何名参加するかが課題。
- ・ あとから、補助を出す等の処理はできないか。
 - 夏期セミナーの余剰金としてかなりの金額があり、何年かに分けて若い人に還元していく方法もある。余剰金が増えていくのは避けた方がよい。
- ・ なんらかの時は余剰金を使用できるようにして、学生さんにはできるだけ来てもらう方針が良いと思う。
 - 従来、ポスターセッションに参加する学生には、旅費の一部補助を行っており、今回の募集も同様に記載している。
 - 募集時はこのような記載をし、参加者による収益予算が確定した後に、学生への旅費補助（半額～全額）を決めることになる。なお、学生の参加費は無料である。
- ・ 部会賞で発表を行う学生への補助は。
 - ポスターセッションと同じ扱いで良い。
- ・ 部会賞（学会講演賞）の表彰式の写真を部会報に掲載するので、カメラの用意をしておくこと。

9. 核燃料部会報 54-2 の作成状況について（資料 9）

平成 30 年度部会報担当の山内委員から、部会報 No. 54-2 の作成状況について紹介があった。

- ・ 核燃料関係国際会議予定一覧については、草ヶ谷副部長に作成して頂く。
- ・ 部会規約改定については、ホームページ掲載と同時期となるが、「核燃料部会の旅費・謝金・参加費要領」（平成 30 年度全体会議承認）と「核燃料部会 部会賞実施要領」（後日メール審議予定）を部会報に掲載する。

10. 核燃料部会報 55-1 について（資料 10）

平成 31 年度部会報担当の堀内委員から、部会報 No. 55-1 の執筆依頼の状況について紹介があった。

11. 2018 年度核燃料部会活動報告について（資料 11）

原田庶務幹事から、毎年学会事務局に提出している核燃料部会活動報告書の 2018 年度版について、紹介があった。誤記等を修正して今週末までに事務局に提出する。

12. 委員交代（資料12）

原田庶務幹事から、電中研の尾形委員から園田委員への委員交代の連絡があったことによる委員交代に関する部会全体審議の手続きについて、紹介があった。

また、今回の手続きに合わせ、以下を追加することとした。

- ・ 大阪大学の牟田先生の委員追加（本人へは後日依頼）
- ・ 日本核燃料開発の平井委員から樋口委員への委員交代

13. その他

次回の運営小委員会（第二回）は、夏期セミナーの開催場所で7月10日の昼休みに実施する。ホームページの更新については、庶務幹事でできることは進めておく。

以 上